

編集・発行：滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当（はしかけ担当職員：中川・松岡）

住所：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話：077-568-4811 ファックス：077-568-4850

電子メール：hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ：https://www.biwahaku.jp

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

## ～ 目次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会  
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新  
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ  
 (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生きもの調査グループ  
 (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会  
 (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊  
 (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい

### 3. 生活実験工房からのお知らせ

### 4. その他の事項

会員数 … 372人

グループ数 26グループ

(2020年12月1日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

### ◆リニューアルグランドオープンしました!◆

2017年から3回に分けて進化を遂げてきた琵琶湖博物館が、最後のA・B展示室のリニューアルを終え、ついに10月10日グランドオープンを迎えました。すでにご覧になられた会員様もいらっしゃると思います。それぞれの学芸員の研究の成果が詰まった展示内容を、はしかけ会員の皆様におかれましては、学芸員の顔を思い浮かべながら、じっくりと見ていただければと思います。館内の人数制限は継続させていただいておりますので、活動の中で展示室が見たいといった場合には、どうぞ担当学芸員までご相談ください。



オープニングセレモニーの様子

### ◆第28回企画展示「守りたい! 少なくなった生き物たち -未来につなぐ地域の宝物-」が始まりました!◆



新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせていた企画展示も、10月17日から始まりました。関連するはしかけグループの皆様におかれましては、ご協力いただきありがとうございます。前週のリニューアルオープンと合わせ、たくさんのお客様に来ていただいております。少しでも多くの方に、希少生物の保全について知っていただけると良いですね。

今号からニューズレターの担当をさせていただきます松岡です。どうぞよろしくお願いたします。毎年、この第5号でご報告しておりましたびわ博フェスが今年度は中止となり、大変残念ではありますが、感染症の予防と対策を継続しながら乗り切っていきましょう。また皆様とびわ博フェスを開催できることを楽しみにしております。(松岡 由子)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 59 名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田 征也

#### 【活動報告】

■9月20日(日) 第153回定例調査 場所: 蛇砂川 参加者: 17名

近江八幡市と東近江市を流れる蛇砂川で調査を行いました。17人を4班に分け、JR琵琶湖線より下流を1班、JR琵琶湖線と東海道新幹線の間を2班、東海道新幹線と名神高速道路の間を3班、名神高速道路より上流を4班が担当しました。

調査開始時は曇り空でしたが、次第に晴れてきて、気温も30℃近くまで上がり、暑さを感じながらの調査でした。十数年前から河川改修が行われており、三面コンクリートになっている場所が多く、川に入ることができず苦戦した班もありました。

全体で17種の魚が確認でき、その中でもヨシノボリと、魚ではありませんがエビ類が全班で数多く見られました。アユやコイが目視で確認された地点もありました。

(報告: 中島 財)

■10月18日(日) 第154回定例調査 場所: 湖西地方の小河川 参加者: 20名

20人5班で湖西方面の和邇川から鶴川までの小河川を調査しました。朝の集合時間は気温が低く霧も出て、つらい調査になるかと思われましたが、昼前から晴天となり、心地よい調査となりました。

事前に心配していたように水のない河川が多く、どの班も調査場所探しに苦労しました。魚種はあまり多くはありませんが、それでもヨシノボリ、ウキゴリを筆頭にドジョウ、ミナミメダカ、タカハヤ、ヌマムツ、ウグイ等が採集され、産卵を終えたと思われるビワマスの死骸も確認されました。

1班と5班は初参加の方もいたので、調査しやすい和邇川で採集。2班は山奥まで迷い込みながら上流に魚がいないことを確認し、3班は水を求めうろうろと用水路を探し、4班は河口を片端から攻めるという一日でした。

個人的な感想を言えば、用水路が少ない地域なのに魚のいる用水路を見つけ出した3班の努力、4班が調べた5つの河口のうち真ん中の河川の河口にだけウグイが多数いたことが、印象に残りました。(報告: 石井千津)

■11月15日(日) 第155回定例調査 場所: 余呉川と周辺河川、用水路 参加者: 22名

余呉川とその周辺河川、用水路での調査でした。5班に分かれての調査の結果、オイカワ、カワムツなど約22種類の魚種が確認されました。琵琶湖博物館での研究用のサンプルも各班の頑張りにより、一定数確保することができました。

11月の湖北での調査ということで、寒さが心配されましたが、朝から晴れて、胴長で動くとき厚着してきた服を脱ぎたくなくなるくらいでした。川の水も冷たすぎず、気温もちょうど良い、年に一度あるかないかの、絶好の調査日和でした。

先月と今月は初参加の方もみられ、参加者数も少しずつコロナ禍以前の状態になってきましたが、また安心して楽しく調査できる日がくればなあと思う調査でした。(報告: 竹元 冨矢)



11月の調査の様子



ヨシノボリ類が多数派でした



エビノコバンが付いているスジエビ

#### 【今後の予定】

■12月20日 祖父川、惣四郎川等

■1、2、3月は勉強会等を予定しています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で3月以降の活動を休止していましたが、感染防止対策を実施しながら少しずつ活動を再開しました。

### 【活動報告】

■令和2年8月17日(月) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

馬頭観音の御開帳(新城観音堂)

この日は最澄が創建したと伝わる天台宗天水寺の本尊の年に一度の開帳。馬頭観音は江戸時代、馬の守護神として民間に広く信仰された。

「天水寺址は新城里俗ちようすいと称するところにあり。慈眼山と号し馬頭観音を本尊とす。僧最澄の創立にて天台宗に属せしが天正年間兵火に罹り廃滅すと云う。而してその本尊は今猶無格社八幡神社に保存す。」

甲賀郡志(大正15年6月10日発行)より

観音像では珍しく忿怒の形相をした馬頭観音は、馬が草を貪り食うように人々の煩惱を食い尽くすといわれている。

明治45年設立当時は甲賀准四国86番札所であったが、大正3年今郷浄土寺に移転された。堂内には弘法大師像と厨子が現存していることが確認できた。



年に一度の御開帳 馬頭観世音菩薩像



観音堂内に現存する弘法大師像と厨子

■10月12日(月) 場所: 甲賀市甲賀町 参加者: 2名

甲賀町善應寺の本尊十一面千手観音像の御開帳

ご本尊の御開帳に合わせて甲賀准四国10番札所の調査を実施、本堂内に祀られている弘法大師像と厨子の確認ができた。掛額は確認できなかったが、札所石碑は現存している。

弘法大師像の保存状態は良好でお寺の方々の信仰の深さを感じられた。

ご住職や寺総代の方々に甲賀准四国の調査資料を渡し説明をさせていただき、今後の調査の協力をお願いした。



飯道山行者講による法弓の作法



護摩供養の様子



ご本尊十一面千手観音立像



弘法大師像

■7月9日(木)～8月9日(日) 場所:甲賀市水口町 参加者:8名

NHK 総合テレビ中部ネイチャーシリーズに出演し飯道山を案内

「伊賀と甲賀 忍者を生んだ山野」をテーマに撮影され、甲賀では修験の聖地飯道山にある山伏の修行場を案内した。長い梅雨のなか撮影は約1か月に渡り行なわれ10月23日に放送された。ドローンによる映像は圧巻である。



BS1,BS4K で全国放送決定! 「躍動する大自然 奇跡の絶景ストーリー」として12月7日(月)午後7:00に放送される。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・各寺院への訪問調査を進める。

(福野憲二)

\*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



### (3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

#### 【活動報告】

- 10月25日(日) 御獵野乃杜牧場(近江八幡市) 参加者 6名  
近江八幡市の牧場へ日本の馬を見に行きました。  
馬場に出ている馬を見学したあとで、それぞれがニンジンを与えたりして馬と交流を持ちました。
- 11月15日(日) 陶芸の森(甲賀市)  
新型コロナウイルスの感染者の増加に伴い中止。

※11月22日(日)に琵琶湖博物館で行われる植物画教室については次号でご報告します。

#### 【活動予定】

○12月の活動

12月27日(日) 琵琶湖博物館

集合 10:30

オープンラボにて2021年の活動についてミーティングを行います。  
(植物画や館内でスケッチ、吟行をされる方は午後も活動が可能です)

○1月の活動

1月24日(日) 琵琶湖博物館

10:30~15:00 館内活動

博物館内でスケッチや吟行を行います。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください。



### (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

#### 【活動報告】

##### 織姫の会

- 9月30日(水)(参加者:4名)  
糸紡ぎと綿繰り。藍染に行く日程を決めたので、染める糸を製作します。
- 10月10日(土)(参加者:2名)  
地機織りと糸紡ぎ。藍染用の糸を製作。
- 10月28日(水)(参加者:4名)  
地機織りと糸紡ぎ。前回同様、藍染用の糸を製作。
- 11月11日(水)(参加者:3名)  
今回も糸紡ぎ。地機織りのほうは一段落したので、次回から選手交代します。織りたい人は織りに来てください。



11月4日紺喜で藍染

##### 藍染

- 11月4日(水)(参加者:3名)  
湖南市の紺喜染織に藍染に行きました。今年はコロナ感染予防対策のため、少人数に制限して行きました。綿糸や苧麻の苧などきれいな紺色に染まりました。また糸を作って染めに行きたいです。

#### 【活動予定】

##### ■織姫の会

11月28日(土)、12月19日(土)、1月6日(水)、30日(土)

(辻川智代)



### 【活動報告】

#### ■2020年9月の活動

##### ○新型コロナ対策後の2回目の屋内勉強会(参加者10名)

9月27日(日)13:30~15:45

前回通り、第1実習室で、感染防止に配慮し、「屋内勉強会」を実施した。今回は前回同様の対応に加え、最後に実験台等のアルコール消毒を行った。

#### ・内容

- (1)1部:今回から始めた勉強会の実施
- (2)2部:多種の岩石の開示と質問。今後の予定の立案等

#### ・勉強会について

- (1)いきさつ:昨年、当隊への希望、習得したい事項等全般に関するアンケートを北野さんに実施して貰った。その一つとして勉強会が提起された。それを受け、勉強会の担当は村上瞳さんをお願いした。教材の選定、運営方法等を隊員と協議し、さらに中野特別研究員、里口学芸員の助力を得て、最初のプレゼンターも村上さんになって頂き、実施した。
- (2)目的:「地学の用語(地学言語)の慣習、地学の基礎知識の習得
- (3)ゴール:岩石を見分ける力の獲得
- (4)具体的実施策:『地学基礎』実教出版を教科書として活用し、隊員が輪番で適宜、報告・討論・各種岩石等の観察することにより進める。

#### ・第1回詳細実施内容

- (1)報告者:村上瞳
- (2)ポイントと内容:報告者は既に体得している新規事項を学ぶ知見を活用し、テキストをベースに広範囲に下記事項について明瞭に報告した。90分の長時間の講演であったが、多様な異分野のメンバーを含め、飽きさせなかった。テキストp8~9(宇宙の誕生、銀河系の誕生)、p22~23(地球内部の構造)、p26~31(地球内部を構成する物質)、p28~31(地殻を構成する岩石、火成岩)また、火成岩の中から特に、かんらん岩(蛇紋岩)・花崗岩・玄武岩の報告があった。別途送付済みの資料:パワーポイントを参照。
- (3)反省点、課題:A.発表を減らし、持ち寄った岩石を観察する時間を多く。B.岩石を鑑定するときのポイントを教えていただきたい。C.内容をもう少し限定。D.パワーポイントでなくともホワイトボードに板書きしたり、手書き資料も。
- (4)感想:隊員は、多方面にわたり、経験豊かな皆さんです。皆さんの共通点は「身近などこにでもある、ありふれた石ころや地層、地震、噴火等の未知への探求心」であると思われます。今後、どのような結果につながるか、大いに楽しみです。
- (5)今後の地学勉強会の予定  
12月・第2回地学勉強会 田中さん、1月・第3回地学勉強会 中村さん

#### ■2020年10月の活動

##### ○「大津市・相模川源流域の調査・巡検」

日時:2020年10月25日(10)10:00~15:30 快晴爽快

担当 梅澤

#### ・調査の狙い

梅澤が2013年の台風18号の後から本格的に調査してきた相模川源流域の①火成岩が苔むし観察しにくくなりだしたこと、断層に関しても②見えにくくなった場所が多くなったこと、一方、③新たに露頭が見える場所も出てきた。露頭が何とか見える最後の時期かと思い、巡検を企画した。

#### ・調査の概要

大津市の茶臼山に集合し、相模川に向かった。砂防ダムサイトで、里口さんと中野さんと合流し、ハンマーを借用し、順次、下流の露頭から巡検をした。残念ながら、火成岩の露頭は風化と、苔の繁殖で明瞭に見える場所は少なかった。断層に関しても、数日前に降った雨の影響で増水し、長靴を使用した人は露頭の近くに行けたが、通常のハイキングシューズの人は近づけなかった。鳴滝不動で昼食後、断層破砕帯の観察をした。足元が悪い中、ガウジや破碎した角礫岩を観察し、破砕帯の概要を観察しました。今回のポイントの一つの火砕岩の露頭の案内をしたがコケで殆ど見えなかった。また、川を渡る脈状岩も足場が悪いことと、水嵩が高く、明瞭には見えなかった。

その後、最近、断層面が明瞭に見える場所に向かいました。倒木を乗り越えたり、倒木の下をくぐったりして頂き、断層のすべり面やカタクレーサイトが明瞭に見える露頭を調査した。断層のすべり面が色んな方向を向いていることが確認できた。また、チャートの鏡肌の資料も採取しました。

鏡肌の由来は、その面が鏡のように光を反射することに由来しています。採取した方は実体顕微鏡で観察してください。なお、相模川では大きな鏡肌は見えない。近くの三田川には 2013 年の台風 18 号で鏡肌が生じた。最近の写真を下記に示します。昼なお暗い森の中の木漏れ日が反射している写真です。少し離れた場所の写真です。林道から見ると氷が光っているように見えます。少し不気味な感じがします。近くに行くと層状チャートの平滑な面が見えます。落葉等があると見えません。

また、相模川源流域のチャートや花崗斑岩が赤紫や柿色に近い色に着色している状況は多くの場所で観察した。こうした色は時期により退色や変色します。石英ガラスに近いチャートが常温の水で着色したり、変色したりするのは極めて不思議と思えます。水に溶けたイオン等が関与しているものと考えています。

なお、2013 年の台風 18 号で現れた露頭や転石等の状況を当時の写真を活用し別途、まとめてみたいと思います。



三田川の源流域の鏡肌の写真



露頭のチャートは赤紫色、  
転石の花崗斑岩は柿色に着色している。

#### ■ 2020 年 11 月の活動

2020 年 11 月 15 日(日) 湖南省の十二坊山の調査に行きました。詳細、次回、報告します。

#### ■ 2020 年 12 月以降の活動予定

12 月 12 日(土) 13:00 より 琵琶湖博物館。第 2 回地学勉強会 田中さん  
1 月 琵琶湖博物館。第 3 回地学勉強会 中村みどりさん・中村絆那さん

## 温故写新 (6) 温故写新

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 26 名 】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

#### ■ 9 月 24 日(木) 10:00~12:00 博物館研究交流室 参加者: 4 名

大橋コレクション整理作業

およそ 500 枚の写真チェックを終え、いよいよゴールが見えてきました。  
もう少しで約 50000 点の全写真のチェックが完了します。

#### ■ 9 月 26 日(土) 10:00~16:00 参加者: 7 名

おでかけ撮影会 in 彦根

今年度から、大橋コレクションで撮影されている場所を再訪し、同じアングルで撮影をして今の風景を記録するプロジェクトを始めました。第 1 回目となる今回はレンタサイクルを使って彦根城周辺、琵琶湖湖岸などを周り、およそ 20 カットと同じ写真を撮ることができました。いつも大橋コレクションの整理作業で見ていた風景と大きく変わったところ、変わっていないところ、様々な場所がありました。



■10月15日(木) 10:00~12:00 博物館研究交流室 参加者:2名

大橋コレクション整理作業

温故写真ではチェックをしていなかった3000点ほどの写真チェックを行ないました。

■10月24日(土) 10:00~12:00 参加者:9名

おでかけ撮影会 in 大津

大津駅を集合し、山麓にある長等公園、石山寺から琵琶湖疏水付近、そして大津市内の商店街を巡りながら写真を撮影してきました。数年前と風景が大きく変わった大津駅前を見て、あたり前だった以前の写真も残しておけばよかったね、とメンバー間で話をしていました。

■11月19日(木) 10:00~12:00 博物館研究交流室 参加者:4名

大橋コレクション整理作業

過去に温故写真ではチェックをしていない500枚の写真チェックを行いました。次回からは、博物館HPの資料データベースに掲載する写真の選別を行います。

<今後の予定>

11月28日(土)おでかけ撮影会 in 彦根第2弾 JR彦根駅集合

12月12日(土)これまでの撮影した写真の整理作業

12月16日(水)大橋コレクション整理作業



## (7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時:2020年 9月18日(金) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者 3名

②日時:2020年 9月23日(水) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者 2名

③日時:2020年 9月29日(火) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者 2名

④日時:2020年10月20日(火) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者 2名

⑤日時:2020年10月24日(土) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者 3名

活動内容:多賀の発掘現場で採取した土を丁寧に小割りしたり水洗したりしながら顕微鏡で観察し、微小な化石を探す作業を行いました。丁寧に作業しているため、少量ずつの土しか作業することができず、なかなか微小な化石を見つけることができないのですが、作業する意義についてメンバー同士で確認しながら、根気強く作業を続けています。



■はしかけ登録講座での活動紹介

日時:2020年 9月27日(日) 13:30~15:30

場所:琵琶湖博物館 ホール 参加者:1名

活動内容:はしかけ登録講座にて、古琵琶湖発掘調査隊の活動紹介を行いました。



## ■野洲川での屋外活動に向けての自主勉強会

日時:2020年10月31日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者:9名

活動内容:野洲川(滋賀県湖南市)で行う地層の観察などの屋外活動に向け、その準備として自主勉強会を行いました。メンバー2名がそれぞれ、『野洲川(滋賀県湖南市)での活動の目的や現地の説明』と『地層の観察方法についての基礎的な知識』や、『断層と琵琶湖の移り変わり』について、事前に勉強してまとめてきたことを他のメンバー達に説明しました。仲間同士で教え合う雰囲気の中、多くの質問も出て、予定していた勉強会の時間が足らなくなるほど充実したものとなりました。



また、古琵琶湖発掘調査隊の事務局を担っているメンバーからは、以前より検討を進めていた、古琵琶湖発掘調査隊のメンバー間での情報共有を目的とするメーリングリストの導入についての説明がありました。参加していたメンバー達と運用方針やルール、注意点などについて最終的な話し合いを行い、メーリングリストの運用を開始することになりました。

今後も、自主的に勉強してきたことや疑問に思っていることなどを気軽にメンバー同士で発表できる場を設けていきたいと考えています。

### 【活動予定】

#### ■野洲川(滋賀県湖南市)での屋外活動

日時:2020年12月13日(日) 場所:野洲川(滋賀県湖南市)



## (9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

現在の博物館への入館の状況を考えると、子どもたちを集めての紙芝居の上演や合唱を実施することは難しいと考えている。そのため、今後の会の活動方法を考えるために、9月27日と10月25日にメンバーが集まり話し合いをした。話し合いでは、コロナ終息後の活動の希望などは提案されるものの、現状での活動をどのように展開するかについてはなかなか結論が出なかったため、博物館の入館制限が続く間は、活動休止とすることに決めた。

### 【活動予定】

3月まで活動休止



## (10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 妹尾裕介・大槻達郎

今年の紅葉はいかがでしたか。博物館では今年も見事な紅葉がみれています。このごろ寒い日と暖かい日が数日ずつ入れ替わり、季節が秋から冬へと変わってきていますね。生き物たちも冬ごもりの準備に忙しいそうです。さて、新型コロナウイルス感染症対策のため、今号も残念ながら、はしかけ活動の報告はありません。ただ、ディスカバリールームのイベントとして、1月16日(土)に「森の宝物をさがそう!」を実施する予定にしております。ぜひこの機会に、はしかけさんもご参加ください。感染状況の増加により、今後、中止する可能性もありますので、web ページ等で最新情報のチェックもお願いいたします。

### 【活動報告】なし

【活動予定】現在調整中、詳しい内容はメールで問い合わせください。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう!

また、ザ! ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



## (11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 45 名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山本 綾美

### 【活動報告】

#### ■ 10月3日(土) 里山体験教室 下見 参加者 16人

コロナ禍により、春と夏の里山体験教室は中止になりましたが、野外での活動なので対策を取りながらの開催ができることになりました。里山の会のメンバーと久しぶりに顔を合わせ、皆さんの元気そうな様子にホッとしました。

里山に入るのも久しぶりのため、草刈りが必要かと心配しましたが、地元の森林所有者の方々が草刈りに入ってくださいっており、非常に助かりました。

今年の秋の実りは、例年より遅めで、アケビは青く栗はいまだ開かずの状態。それでも、さまざまな植物やきのこ、生き物について会員通しで学びあい、次週の本番に向けての準備と下見ができました。(山本)



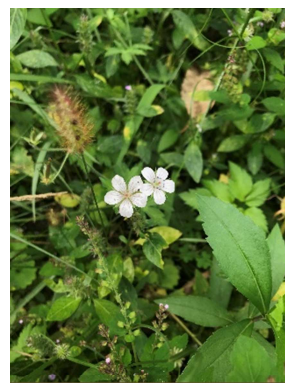
くぬぎのどんぐり



セイタカイグチ



山芋のムカゴ



ゲンノショウコの花

#### ■ 10月11日(日) 里山体験教室 本番 参加者 29人

台風一過の快晴の秋晴れ！とても気持ちの良い里山体験教室となりました。一般参加者 16 人、はしかげ里山の会 13 人例年より人数を絞っての実施です。午前中いっぱいを使って、秋の里山散策。下見の段階ではまだ開いてなかった栗が、まさしく拾い時、皆さん夢中になって栗拾いです。途中で笹船流しやお花摘み、キノコの観察などわくわくがいっぱい！

お弁当を食べた後の午後からの活動は、里山環境と人の暮らしのお話を聞いた後、里山整備をしました。落ち葉かきや林内整備で汗を流した後は、森の恵み雑木の枝を使って木の名札づくりとキーホルダーづくりをしました。

里山整備も木工作もみなさん親子で協力しながら活動してください楽しい一日になりました。(山本)



### 【今後の活動予定】

#### ■ 12月3日(土) 押花の灯りづくり



## (12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

秋も深まり、里の木々が赤や黄色となり艶やかな風景となっています。

また、山々のドングリや木の実が成る「実りの時期」です。しかし、少し山に近いところを歩くと、いわゆる「くつつきムシ」といわれる雑草の種が洋服や靴にびっしり付いて困られる時期でもあります。

### 【活動報告】

#### ■10月 14日(日)「持ち寄ったものの観察、樹幹トレイルでの観察」 参加者 8名

この日は、新しいメンバー(見学を含む)が参加のため、自己紹介から始まりました。

メンバーが持参した天然マイタケ(かなりレア!)を見せてもらい、他の色々なキノコを見つめること(画像を撮って、後日専門の方に見ていただきましたが、やはり実物を直接見ないと詳しい判断は難しいとのこと、〇〇のなかまということだけアドバイスいただきました)から始まり、ホルトノキ(実、皮は薄くほぼ全てが実)、イヌマキ(実、緑で硬い部分には種子が入っている、赤く熟した部分は食べられる)などを観察して外へ。屋外へ出てすぐのツガ(あおい実が成っている、昨年の実は少し落ちている)を見て樹冠トレイルの入り口へ。クワクサ(花)、シラカシ(今年はほとんど実がない?)、アラカシ(実多い)、リンボク(花)、シイ(実はまだあおく食べられない)、ニガキなどを樹冠トレイルで観察しました。2年前に植えてもらったトチノキ、アカガシ、ツクバネガシ、マテバシイに「大きなあれえ〜」と願いをかけて、戻り道へ。最後に、博物館のディスカバ横の入り口近くにあるメリケンムグラ(白い花)、ムクノキ(実はまだあおく食べられない、黒紫になれば食べられる)を観察して終了しました。

#### ■11月 1日(日)「樹幹トレイル、湖岸、博物館周辺の観察」 参加者 6名

代表者欠席のため、後日メールにて詳細内容や感想を送っていただきました。

メンバーが持参した小原かご(7年前に体験教室でイタヤカエデを削るところから制作したとのこと)とエビヅル、ノブドウ、イヌビワを見た後、屋外で観察。ツガ(今年は球果が沢山なっていた)、ウバメガシ(実)、トネリコ、アカシデ(実なし)、エビヅル(実なし)、クマシデ(実なし)、樹冠トレイルで、マテバシイ(実)、ウラジログシ(裏が白い葉と実)、ツバキ(実から種を取り出して観察)、アラカシ(実多い)、ツブラジイ(実、もう食べられる?)、ニガキ(黄葉)、シラカシ(実)、実験工房へ降りて、田んぼの傍で綿の実(簡単に糸づくり?)、キササゲの実、イチイガシ(実)、そこから西側道路へ出て、ムベの実、シロダモの花と実、北側道路でヤブニツケイの葉のにおいと実、湖岸へ出てヨメナの花、オギの穂とサクラタデの白やピンクの花、アレチウリの実、そして最後にバス停から玄関に向かい、ナワシログミの花、ススキの穂とカツラの実を観察しました。

秋は、普通「ドングリ」といわれる実を付けるカシやシイのなかまの実が同じ時期に見られることで、その殻斗(帽子)や実(ドングリ)のすじの入り方や大きさなどの特徴を比べることが出来る楽しい時期です。その時期ごとに見るポイントや部分が違い、それも楽しみのひとつです。だからこそ植物を通して自分たちの知識、考え、予想を話し、季節を楽しみ、植物の不思議を楽しみたいと思っています。

### 【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定(しばらくは、密を避けるため、行いません)です。このニュースレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- 12月 6日(日)「持ち寄ったものの観察、博物館・樹幹トレイル周辺の観察」  
場所：実習室1または2、または大人のディスカバ 集合  
時刻：13:30~16:00 ごろ
- 1月10日(日) 未定  
※11月以降の計画は、メール等で相談し、決める予定です。

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇〇)/  
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



## (13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

### 【活動報告】

たんさいぼうの会第64回総会を、10月31日(土)に、琵琶湖博物館研究交流室で開催しました。参加者はZoom参加も含めて6人、コロナ禍発生以降は参加人数が寂しい状態が続いています。しかしそれぞれの研究活動が報告され、他の2人の会員からもメールで活動状況の報告が届くなど、研究は着実に進んでいることが確認されました。そして今回から、大阪湾の植物プランクトンや付着珪藻を研究している新入会員を迎えました。実は本会には、海産珪藻について国際誌に論文を書いた会員が複数いるので、相乗効果による今後の展開が楽しみです。

山本真里子会員が影の会長と共に書いた、藤前干潟(愛知県)の珪藻植生の論文が、珪藻学会誌 *Diatom* に受理されました。核染色法と篩法の組み合わせによって、現場で生育していたと推定される珪藻だけを選び出して報告した画期的な論文です。山本会員はこれまでも、藤前干潟の珪藻を用いた培養実験や、上記の「現場で生きていた珪藻だけを選び出す」方法論で国際誌に論文を書き、その成果で博士号も取得しています。一方、今回の論文は藤前干潟の珪藻植生を初めて具体的に明らかにしたものであり、本人曰く「やっとお世話になった藤前の人たちに恩返しのできた」とのことです。間もなくオンラインで、そして12月中には冊子として出版される予定です。そして何と、この研究に関連して山本会員が撮影した写真が、*Diatom* の表紙を飾ることになりました。詳しくは次号ニューズレターで報告します。

どうにも扱いが難しいLED光源化したNikon Eclipse 80iに翻弄されながらも、細々と顕微鏡写真撮影を進めています。撮りためた写真の同定を影の会長がチェックしなければならないのだけれど、編著「田んぼにはなぜ多様な生き物がすむのか」の出版やら「田んぼの生きもの全種データベース」の公開やら「琵琶湖地域の水田生物研究会」の準備やらで忙しく、なかなか手が回っていないのが現状です。この年末年始で遅れを取り戻さなければなりません←実はこれを書いているのが影の会長。

### 【活動予定】

集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。藤ヶ鳴湿原(岡山市)、瀬田公園湿地(大津市)の珪藻、メダカの水槽に出現した珪藻の研究について、論文を書き始めています。また、12月5日(土)・6日(日)に行われる日本珪藻学会第40回研究集会(オンライン開催)で、根来健会員(ただし特別研究員として)が、またも琵琶湖の珪藻に関する重大発表をします。詳細は次号で。

他にも、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鈹質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究などを進めています。



## (14) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

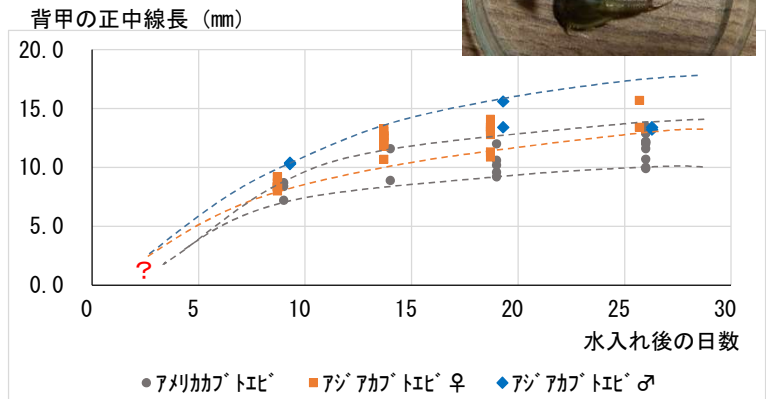
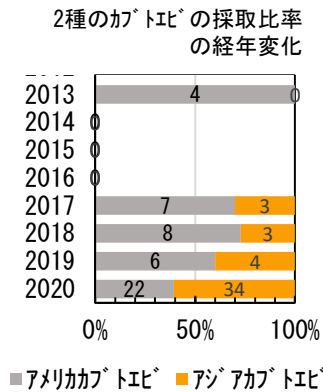
今年は、滋賀県における主食用の水稲作付面積が大きく減少し、作況指数も98のやや不良であったようです。私たちがこれまで調査の対象にしていた水田のなかにも、開発で消滅した所や、作付けが行われないまま秋を迎えたところも少なからずあったように思います。冬の田んぼの土の中で休眠しているエビたちの卵が、来年春に元気に孵化してくれることを祈るばかりです。

### 【活動報告】

8月から9月にかけて4回にわたり実施した同定会の結果を分析する作業を継続中です。本年度は、大津市の瀬田・石山寺地区の45筆前後の水田における2種のカブトエビの生息状況を明らかにするために、数日の間隔をあけて3~4回の調査を行い、2000個体程度のサンプルを採取しました。まず、同定結果をもとに、筆ごとに2種のカブトエビの競合状況をまとめました。

続いて、採取した全個体について、背甲の正中線の長さをデジタルノギスで測定する作業を行い、採取できた個体数の変化とともに、各筆における2種のカブトエビの個体数動態と成長の状況を、たとえば、次頁の図のように可視化できないか、検討を続けています。全体としては、かなり多数のデータは取れているのですが、相手は土に潜って姿を隠したりすることも多い、

気まぐれな生身の生きものであるため、調査結果は偶然性に左右されることも多く、「きれいな」結果が得られることはあまり期待できません。気長に分析を続けていきたいと考えています。



【活動予定】

結果が報告できるのは、例年3月に行っている総会の頃になりそうな気配が濃厚ですので、気長にお待ちください。目途が立ち次第、メールで日程調整を行う予定です。

(山川 栄樹)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」実施中>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まり、2020年に本調査を実施し5月31日に調査期間が終了しました。

<「タンポポ調査・西日本2020」の調査期間を延長予定>

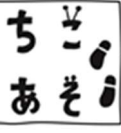
新型コロナウイルスの感染防止対策として、すべての参加府県で、広く参加を呼びかけるイベントや行事が中止になっているため、本調査事務局では調査を2021年まで延長して実施することを決めました。実際には府県ごとに方針を決めることとなりますが、滋賀県では2019年、2020年の結果を検討して、2021年には調査データの少ない地域や種類(雑種のタンポポがデータに上がりにくい)を補足的に調査する予定にしています。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから、今後活動の整理を進めており、グループとしては一度解散することも検討中です。2019年の調査の際に参加表明いただいたメンバーには、別途メールで今後の活動について伺う予定です。



【活動報告】

◆コロナ対策として、事前予約制とし、午前午後の2部制で活動を行いました。

◆10月の活動 10/21(水)

午前の部:子ども4名、保護者3名、午後の部:子ども6名、保護者3名

土の中の野菜を収穫しました。サツマイモ、落花生、サトイモ、キクイモをスコップで土を掘り返して収穫しました。一緒に出てくるミズや甲虫の幼虫をバンダナおじさんに教えてもらいながら、掘りあてたイモに「あったー！」と喜びの音があがっていました。初めて知るキクイモや落花生が土の中に潜る不思議に、お母さんも子どもと一緒に楽しんでおられました。

今回は、親子ではしかけに登録され、「どんなはしかけ活動があるかなあ」とお話し＆相談で来られた親子もおられました。生活実験工房やちこあその存在を知ってもらえ、少しずつ輪が広がっていくことを期待しています。

◆11月の活動 11/18(水)

午前の部:子ども5名、保護者3名、午後の部:子ども5名、保護者3名

今回もサツマイモの収穫！と意気込んだのですが、どうも生育が悪かったようで、小さなものがちよこちよこ掘れるばかり。それでも土遊びは楽しく、ミズを集めたり、紫色のイモが埋まっているのを発見したりと楽しい体験でした。今回は火おこしをして、焼き芋をしました。火吹き竹にも挑戦して、フーフーと吹くと、炎が赤くなる様子を見ました。「初めて火を見るかも」とお話しされるお母さんもおられ、人間にとって大事な火がだんだんと生活から離れていっているかもしれないとも思いました。今回は参加の方も少なかったため、朝から来られた親子も午後までゆったりと過ごしていただきました。夏日！のような温かさで心配でしたが、外でゆったり過ごすには非常に気持ちよく、水遊びでガチャコンポンプも大活躍でした。

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しており、屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児が密接になり遊ぶことは避けられません。三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。



10月ヌマガエルがいました 冬眠前かな



11月火吹き竹に挑戦中 フーフー



11月とは思えない陽気でほっこりでした

【今後の活動予定】

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
12月	12月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 12月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。
1月	2021年1月13日(水) 10:00-14:00 第2水曜日です	ちこあそ 1月	※いつもの第3水曜日は工房が利用できませんので、第2水曜日に実施します。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



## (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

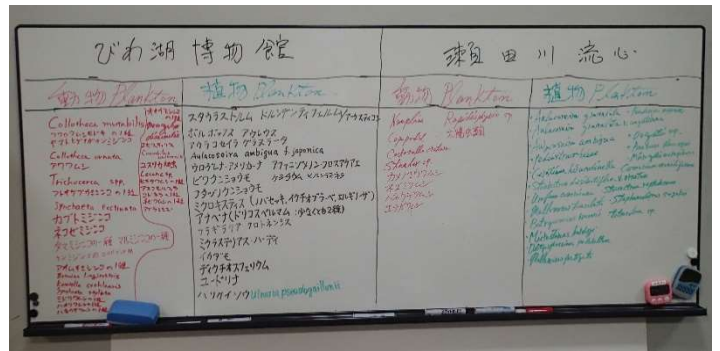
### 【活動報告】

#### ■ 10月18日(日)(参加者8名+学芸員1名)

久しぶりに新しい会員を迎えての活動でした。博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。当会にはプランクトンに詳しい会員が多いのです。しかし、皆得意としている分野が異なっているので会員間で知らないことを教えあうことが出来るので勉強になります。今回は会員のI先生にケンミジンコの特徴などについて教えてもらいました。



ケンミジンコの観察中



今回も多くのプランクトンが見つかりました。

### 【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



## (18) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 由良 嘉基・奥野 知之

### 【活動報告】

#### ■ 10月10日(土) 「植物の化石を掘り出そう！」中止

#### ■ 11月14日(土) 「秋の色探しをしよう！」中止

琵琶湖博物館は、グランドオープンを終え、毎日多くの方に来館いただいています。完全予約制の開始から、土日祝の一般来館者の数が非常に多くなっています。感染拡大防止の観点からも、従来通りのわくたんの活動をするのが困難となりました。

誠に残念ではありますが、メンバーの安全・お客様の安全が確保できるまでわくたんは中止となりました。今年できなかったプログラムは来年にぜひ実施したいと考えています。



## (19) ほねほねくらぶ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中川信次・松岡由子

### 【活動報告】

#### ■ 9月27日(日) 参加者2名

クマの頭の骨のクリーニング、フナの組み立て、はしかけ登録会での活動紹介を行いました。

#### ■ 10月4日(日) 参加者2名

クマの頭の骨のクリーニング、フナの組み立てを行いました。



▲クリーニングが完了したクマの頭

■10月18日(日) 参加者2名、見学者1名  
カルガモの解剖、タヌキの皮剥、を行いました。

■10月31日(土) 参加者7名

ネコの解剖、タヌキの徐肉、カメの組み立て、クマの頭骨のクリーニングを行いました。  
この日は、前回ははしかけ登録会で登録していただいた方達が、多く活動に参加していただきました。  
一通りの活動の説明と見学が終わると、皆さんでカメの骨の組み立てに取り組んでおられました。  
カメの甲羅は人間でいうと背骨と肋骨の骨がドーム状の形になったもので、その骨同士の接触面は、尖った凸凹がお互いにかみ合うようになっているので、ぴったりと隙間なくはめ込むのがとても大変なのですが、皆さん興味をもっていただいた様子で根気強く取り組んでおられました。

■11月8日(日) 参加者4名

ネコの解剖、タヌキの徐肉、カメの組み立てを行いました。

■11月14日(土) 参加者2名

ネコの解剖、タヌキの徐肉を行いました。

【12月、1月の活動予定日】

12月の活動予定日は、5日(土) 13:00~16:00  
20日(日) 10:00~12:00  
26日(土) 10:00~12:00を予定しております。

1月の詳しい活動日は現在未定ですが、  
月に3回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



▲10月31日の活動で取り組んでいたカメの甲羅。



## (20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

### 【活動報告】

■10月19日(月) 10:00~15:00 場所: おごとハーブガーデン 参加者: 9名

#### 活動内容: おごとハーブガーデン散策&ワークショップ

10月は館外活動として、滋賀県大津市のおごとハーブガーデンに行きました。

午前中はガーデンを見学しながら、ガーデンの方からハーブの説明をして頂き、お気に入りのハーブを摘み取りました。ワークショップとして、ハーブビネガーとハーブソルトを作成しました。ハーブビネガーは、摘み取ったハーブで作りました。ハーブソルトは料理用で、数種類のドライハーブをブレンドしながら作成しました。ハーブの香りを確認し、効能を学びながら、料理活用を考えつつ作成することができました。

午後は、ハーブ・スパイスを取り入れたお弁当をいただきました。食後はガーデンにて、各自飲みたいハーブを摘み取り、フレッシュハーブティーを入れ、みんなで飲み比べをしながら楽しみました。最後に代表の山本先生のお話を聞きました。お話を聞いて、交流の時間も持ててよかったです。

(参加者の感想)

- ・いろいろなハーブの利用方法、改めて素晴らしさに感動でした。
- ・素敵なハーブ園で手摘みのハーブでビネガーが作れて、とても楽しかったです。自分で調合したハーブソルトを使うのも楽しみです。
- ・風味の違うハーブティーの飲み比べもできて面白かったです。家で応用できそうでとても勉強になりました。
- ・作ったハーブ塩は、さっそく家でお料理に使いました。市販のものとは違うもので、家族にも好評でした。
- ・農薬や肥料を使わない農業にもチャレンジしておられるお話も聞け、近くにこのようなところがあることを知り、うれしく思いました。
- ・ハーブビネガーは、見た目もおしゃれでタデの色もまたきれいです。身近にあるイヌタデは、ビネガーに使えるでしょうか？！
- ・ハーブガーデンで楽しいひと時を過ごさせていただき感謝です。ハーブの塩とビネガー作りは初めての体験で、家に帰ってから待ちきれずにご飯にかけたり、サラダにかけたりして、美味しく味わいました。ビネガーもできあがりを楽しみます。





■11月8日(月) 10:00~15:00 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者:11名(子供1名を含む)

**活動内容:ビワの葉こんにやく湿布とハーブボール作り**

11月は、植物の力を存分に取り入れられる方法を学ぶ場として、こんにやく湿布とハーブボール作りを行いました。

午前中はハーブボールを作りました。身近にある薬草(乾いたもの:どくだみ、ビワの葉、桑の葉、レモングラス、ヨモギ、生姜、ミカン、玄米等)を用意し、各自ブレンドして、ハーブボールに仕上げました。実際に作ったハーブボールは、蒸して、ツボを意識して体験しました。

午後から、ビワの葉こんにやく湿布の体験をしました。体のつかれている場所や、気になる場所に、ビワの葉、茹でたこんにやくをタオルでまいたものをあてて、体を温め、時間を過ごしました。合間にハーブティーを頂きました。飲用したハーブティーのブレンドは、レモングラス、アップルミント、カラミンサでした。

★活動で使用したハーブボールについて

- ・2、3日中に使用するなら冷蔵庫に、使用しなければ冷凍庫で保管する。
- ・次に使う時は、もう一度水を含ませてから、ラップをしてレンジで蒸す。
- ・温めたら水気を取って使用する。
- ・香りがなくなったら、使用をやめてハーブを土に返してあげる。

(参加者の感想)

- ・メンバーの方と一緒にハーブの力に癒され、こんにやくに温められ、明日からも元気に過ごせそうです。
- ・ハーブボールで癒されて、こんにやく湿布で温まって、ちょっぴり疲れがとれました。
- ・ハーブボールは、見た目もおしゃれで、乾燥したものを常備して、ツボ押しに使ってもよいと思いました。
- ・手にはたくさんの臓器の反射帯があり、すごいと思いました。目の体操も教えて頂けて良かったです。
- ・こんにやく湿布は、体の仕組みも勉強になりました。手を当てる「手当て」は、心も身も癒されます。
- ・ハーブボールを当てた翌日、朝もパツと起きられて、改めてハーブの効果を実感しました。家でも試してみます。



### 今後の活動予定

- 12月 2日(水)季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)
  - 12月 13日(日)しめ縄作り(生活実験工房)
  - 12月 20日(日)博物館実施のしめ縄作り(生活実験工房)
- 時間等、詳しい内容はその都度連絡します。



## (21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

### 【活動報告】

新型コロナウイルスの影響もあり野外活動は実施できませんでしたが、引き続き月1回「虫架け通信」を発行し、メンバー間での情報交換を行っています。

9月例会報告  
実施内容: トライトラップ  
実施日時: 2020年9月13日 18:00~22:00  
参加者: 伊藤 謙二 人、榎原 謙二 人、藤田 誠 人、橋本 謙二 人、大塚 謙二 人、佐藤 謙二 人

連絡  
11月22日は、生活実験工房で「虫架け通信」の発行作業を行いました。今回は、生活実験工房のメンバーが協力して発行作業を行いました。

記録・短報  
9月例会報告  
9月13日の例会は、生活実験工房で開催されました。内容は、トライトラップの設置と回収、アロマウォーターの作り、しめ縄作りなどです。

### 【活動予定】

新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会をしたいと考えています。

山地などで昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



## (22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

■観察会(琵琶湖博物館周辺) 9月27日(日) 10:00~12:30頃 集合場所: 琵琶湖博物館職員駐車場 参加者: (会員)2名 博物館職員: 林

博物館周辺の植物ガイド作成のための調査で博物館の周辺を散策した。駐車場~博物館南東の外周とバス停~玄関~ザリガニ池~西道路~北道路~樹冠トレイル~生態観察池の東を巡った。この時期シイ・カシ、メタセコイア、フウ、オニグルミ、トウネズミモチ、ナナメノキ、コブシ、エゴノキ、ナリウツギなど多くの木の実を見ることができた。花を咲かせているのはアベリア、アキニレ、ハギ、キツタ、キジョランでメタセコイアの雄花、リンボク、シロダモの花芽が目立つようになった。樹冠トレイルではクズとキカラスウリが繁茂し樹木を覆っているため今後、除去作業を実施する。しばしコロナ感染症を忘れ多くの植物の様子を見ることに集中できた。



(写真左からアキニレの花、キツタの花、キジョランの花)

■外部観察会(びわこ文化公園)10月10日(土)10:00~12:30 集合場所:北駐車場(大津市瀬田南大萱町)参加者:(会員)名 博物館職員:内容:雨天のため中止した。

■外部観察会(びわこ地球市民の森)10月24日(土)10:00~12:30頃 集合場所:ふれあいゾーンの駐車場(守山市今浜町) 参加者:(会員)3名 博物館職員:林

内容:びわこ地球市民の森は、滋賀の緑化再生事業の一環として野洲川の廃川敷地を活用して造られた森です。今回は、水辺の植物やコナラやシイなどの樹木の生態観察ができるふれあいゾーンで観察会を行いました。まずは駐車場近くのアラカシがとてもシラカシに似ていたのので、改めてその違いについて確認。その隣には9月に琵琶博で花を咲かせていたアキノレがびっしり実をつけていました。川のそばで注目したのは銀色にきらめくオギの花。よく似たススキとの違い(小穂に密生する毛の長さや生育環境など)を教えてくださいました。他にはセイタカアワダチソウ、ミゾソバ、サクラタデ、イヌタデ、アキノウナギツカミ、タコノアシ、ガマ、ヨシ、アメリカネナシカズラ、ウキヤガラ、コウゾリナ、ヒカゲイノコヅチ、アカメヤナギ、シラカシ、ネムノキ、ヤシヤブシ、ハンノキ、ウリハダカエデ、エゴノキなどを観察しました。またクヌギやナラガシワ、コナラ、アラカシ、シラカシ、スダジイがどんぐりをつけていて、実のつき方や特徴なども確認しました。さらに別ゾーンに移動し、滋賀ではあまり見かけないカシワの実も観察しました。いつものように時間はオーバーしてしまいましたが(笑)、植えられたものと自生のものが混じり合い、タコノアシなど珍しい植物もある楽しいスポットでした。また季節を変えて出かけたかったです。(報告/三輪ゆうこ)



写真(左)ススキよりフサフサ感があるオギ。(中央)クヌギの子分のようなカシワのどんぐり。(右)タコノアシ。実や葉が紅葉してその名の通りに。写真(下)エゴノキの実を上手に食べるヤマガラ。

■A,B 展示の見学 11月14日(土)13:30~16:00 集合場所:琵琶湖博物館職員駐車場 参加者:(会員)4名 博物館職員:林  
内容:リニューアルされたA及びB展示を林学芸員の解説を受けながら見学した。展示物の詳細な説明と質疑の他、作成に関する苦労話なども伺え個人的な観覧では味わえない非常に充実した時間を過ごせた。

#### 【今後の予定】

- ◎日時:11月28日(土)13:30~16:00 集合場所:琵琶湖博物館職員駐車場  
内容:樹冠トレイル、太古の森のつる植物除去など(雨天の場合は中止します。)  
持ち物:長靴(チヂミザサなどの付着防止)、軍手、あれば剪定鋏など  
◎日時:12月12日(土)13:30~16:00 集合場所:琵琶湖博物館職員駐車場 内容:11月28日の続き  
◎日時:12月26日(土) 検討中

- ★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
- ★参加を希望される方は 森人(もりひと)hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



## (23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

### 【活動報告】

新たに1名がグループに加わりました。メンバーのうち高校3年生が引退したこともあり、この2ヶ月の間、担当者が関わった活動実績はありません。

### 【活動予定】

新型コロナウイルス感染拡大が予断を許さない状況になってきています。科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であるため、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってください。今後も、社会状況の変化をみながら、活動を進めていきたいと考えています。



SALON DE 湖流  
Lake Biwa Museum

## (24) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

### 【活動報告】

#### ■ 10月24日(土)13:30~ 近況報告など

場所: 琵琶湖博物館 実習室2

参加者: 5名 (はしかけ4名 学芸員1名)

3ヶ月ぶりということもあり、近況報告も兼ねた様々な話が細切れに進みました。

- ・当初は環流が地形の影響を直接受けることを考えていたが、むしろ内部波の発生と漁獲量との間に相関がありそうという感触を得ている。
- ・潮目を挟む色の違いがプランクトンの種組成によるものということが鈴木学芸員から借りたネットを曳いてみて確認できた。黒っぽい水はミジンコ主体で白っぽい水はケイソウ主体。
- ・センサーの位置と方向を併せて記録する道具を試作してみた。
- ・地形模型を木を彫刻して作れないかと検討を進めている。

#### ■ 11月14日(土)13:30~ Zoom 体験会など

場所: 琵琶湖博物館 実習室2

参加者: 5名 (はしかけ4名 学芸員1名)

11月29日(日)にZoomを利用してオンラインで開催予定の魚類自然史研究会での研究発表を予定しているので、それに備えて発表者の操作練習と、他のメンバーの参加体験を兼ねて、実習室と研究室のPCをZoomで接続してみました。

その他、細々した現況報告を行いました。

- ・地形図から断面図を起こす作業をやってみたところ、思いのほかノッペリしていて驚いた。
- ・内部波の観測経験が長い琵琶湖研の研究者に話をしてもらおう件を進めてみる。
- ・地磁気で方向を測るセンサーを使った測定器を試作してみた。水流の方を向くようにすれば水流の方向が測れるのではないかな。

### 【活動予定】

当面は原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つことにします。



## (25) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

### 【活動報告】

#### ■ 1. 2020.9.16(木) 9:30-14:00 天候: 曇り 参加者: 6名

①活動場所: 東近江市域

②調査目的: 古くから農業用水確保用に点在している東近江市域のため池調査、継続調査としての勧請吊り調査、湧水調査および旧軍掩体壕(戦争遺産)見学

## ◆1.ため池調査として

### ①宮溜(滋賀ため池 50 選の国営宮溜調整池)

- 新愛知川地区地域用水機能事業で大きく拡大された用水池。当地域は縄文晩期の竪穴住居跡や壺が発見されている。池の中心より「出水」と呼ばれる豊富な湧水が出ている。古代人へのロマンが広がる。

### ②下馬溜

- 石塔寺集落に隣接するため池で池の中央に小さな祠が祀られ集落の人達は水の恩恵を受けていたのであろう。隣地の若宮神社から見下ろせば蒲生野が広がる。下馬とはその昔、貴人の前で社寺境内へは敬意を表するために馬から降りることが礼儀であったため。もちろん境内とは石塔寺を指す。

### ③布施溜

- 布施山の東側山麓に位置する今は公園の一部となっている。後白河法皇の撰による梁塵秘抄にも取り上げられている。すでにこの時代蒲生野に存在していた証拠である。

## ◆2 勧請吊りの継続調査として。

### ①玉緒神社の勧請吊り(東近江市芝原南町)

- 正面鳥居前の集落へ通じる道路に左右のポールから掛けられていた。



真ん中に縄で編んだリースのととりぐらずと善光寺の絵馬が特長。

### ②大森神社の勧請吊り(東近江市大森町)

- 道路で旧来の参道が途中分断されているが神社よりの参道途中に「とりぐらず」のリースのみの飾りが掛かっている。木製で縦に3本横2本の木で編まれている。拝殿向かいの建物の壁に小勧請が3対 拝殿の左右の柱にも小さな飾りが掛けられていた。

### ③天満神社の勧請吊り(東近江市土器町)

- 参道に勧請吊りがコンクリート製の支柱に掛けられている。本殿へは猪除け柵の門を開けると参拝できる。



大森神社の勧請吊り



天満神社の勧請吊り



天満神社

## ◆3 湧水調査として。

- ①「出水」の水質調査 土手下公園にある受け池を経て玉緒神社前の水路に流れ出している水を測定した。

## ◆4 戦争遺産としての旧軍掩体壕(えんたいごう)(東近江市芝原南町)

旧陸軍八日市飛行場に飛行機などを非難させて隠す目的や爆風から保護する目的で作られた施設を掩体といい、布引掩体群として1から 17 号掩体までが布引丘陵北麓に並んでいた中の一つを見学。運び入れるのは大変な労力を要するであろう。戦争の痕跡は今もあることの驚き。

## ■2. 2020.10.8(金) 10:00-14:00 天候:小雨 参加者:6名

### ①活動場所:東近江市奥永源寺地区

②調査目的:永源寺町小椋谷の蛭谷ならびに君ヶ畑の資料館で木地師発祥の歴史と現況について説明を受け、知識を整理することが目的。

### ③調査事項の要旨

愛知川上流小椋谷には政所からさらに上流側に蛭谷と君ヶ畑二つの在所があり、いずれも木地師発祥の地として多くの資料と共に語り継がれている。今回は蛭谷町の木地師資料館、君ヶ畑の木地師のふるさと高松会事務所を訪問、同地区のお話を伺った。

### ④資料館および高松会でのお話での特記箇所として。

- 木地師がろくろで使う部材は主にトチ ブナ ケヤキである。

- 中世末期の頃から伐採する木がなくなれば移動し、木地師は免許書があれば、誰の山でも8合目以上は伐採してよいとされた時代が続いていた。
- ろくろを使って細工されるものは一般に食器やお盆類が中心である。
- 資料館に展示されている資料はレプリカでなく、ほぼ全てが原本類である。レプリカ作りの費用がなかったのが大きな理由で、そのため照明光による痛みも見受けられるとのことである
- 蛭谷 君ヶ畑 共に木地師と在来の住民は共存しながらも、別の集団として互いを区別していたと思われ、その仲立ちは相互のトップ同士間の取り決め事で動いていたようである。相互間の争い事もあったと言われている。在郷の住民は炭焼き・材木・茶づくり・養蚕で生計を立てていた。

■3. 2020.10.29(木) 9:30-11:00 天候:晴 参加者:6名

- ①活動場所: 東近江市石塔寺付近
- ②調査先: 石塔町,下馬溜,北溜,若宮神社,琵琶湖逆水設備,大塚町弁天溜,あかね古墳公園
- ③調査目的: 石塔町付近で昔から行われている用水管理情報の現地深探し、周辺の分土工設備、溜池、古墳を巡ることが目的。
- ④調査事項要旨として
  - 石塔町の用水事情の理解が深まった。特記事項として下馬溜に流入する上流の三つの溜池の一つ「北溜」と昔に囚人に掘らせたという 98mのマンボ(横穴配水路)の位置を現地確認した。この地区の水は金気で水路は茶褐色に変色している箇所が多く見られた。道路横を流れる水路は整備された大堂川で、狭い小さな水路であるが琵琶湖に流れる一級河川として管理されている。現在基本の灌漑用水は日野川下流佐波江から琵琶湖逆水を各分土工から給水し、田植え時のみ下馬溜からの用水を利用している。田植え時は周辺で一斉に配水要求が出るため、地区で融通できる溜池水をうまく活用している。点在する県営かんがい事業の分土工も現地確認した。この時期でも逆水ポンプは稼働していたが 水の行き場所は確定できなかった。大塚町の弁天溜 掛出溜も現地確認をした。川合町のあかね古墳公園にも立ち寄った。5世紀前後の方墳(天乞山古墳)円墳(久保田山古墳)で近隣に同時期前後の古墳が多く発見されている。

(本稿の執筆者:小篠)



## (26) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

\* 観察日 令和2年9月1日(火)曇り 気温 31℃

\* 参加者 阿部・小西・清田・松村・百木・津田 計6名

#### 観察状況

- \* 琵琶湖の水位は下がり、湖西の山や伊吹山はかすんで見えない。松の木の下は比較的涼しいが蒸し暑い作業日。
- \* 浜は全体的に葉も元気がなくなり黄色になりかけた葉が目立つ。

#### 活動内容

- \* ネナシカズラ駆除(2か所)。白い花が咲いている。\* 保護区の拡張とロープ張り。
- \* 除草 (チガヤ、コマツヨイグサ、センダンの幼木等)

#### 海浜植物

- \* ハマエンドウ: 大部分の葉と茎は枯れかけている。地面がはっきりと見えるぐらいに葉もなくなり始めた。
- \* ハマゴウ: 花はところどころに咲くのみとなり、種も茶色くなり始めた。葉も全体的に弱り始めた。
- \* ハマヒルガオ: 松林の植栽の方面に2輪、1輪咲いていた。全体的には葉も枯れている。
- \* 新海地区排水処理施設の花壇(3m×1m位)に植えられたハマゴウにアメリカネナシカズラが張付いていた。



今日の琵琶湖



葉が枯れだしたハマエンドウ



残り少ない花(ハマゴウ・ハマヒルガオ)





新海地区排水施設花壇のハマゴウに張付いたアメリカネナシカズラ

**\* 観 察 日** 令和2年10月6日(火)曇り 気温 20℃

\* 参加者 阿部・小西・清田・百木・津田 計5名

**観察状況**

- \* 秋の深まりを感じる琵琶湖。北西の風が吹き、白波が立ち、くすんだ湖水。伊吹山は見えるが高島方面は雲がかかっている。
- 浜は全体的に黄色くなった葉や茶色になりかけた葉、枝が目立つ。浜は北風が強いが松の木の下は風もなく動きやすい作業日。
- \* 浜にはコマツヨイグサやオオフトバムラムに種がついている？



今日の琵琶湖

**活動内容**

- \* ネナシカズラ駆除(4か所)。白い種がついている。 \* 保護区の拡張と入口のくい打ち。(1本)
- \* 除草 (チガヤ、コマツヨイグサ、センダンの幼木等) \* 浜のコマツヨイグサ等の駆除

**海浜植物**

- \* ハマエンドウ:新しい葉が拡大してツルを伸ばしている。琵琶湖側の保護区の中には新しい株が増えている。
- \* ハマゴウ:花はところどころに咲いている。葉も種も茶色くなり始めた。
- \* ハマヒルガオ:全体的には葉も枯れているがまだ緑の濃いものも見られる。



新しい葉が拡大している



残り少ない花(ハマゴウ)



ハマヒルガオ



保護区内にいたセスジスズメの幼虫



枯れた松(二本)

**\* 観 察 日** 令和2年10月13日(火)晴れ 気温 23℃

\* 参加者 宇野さん・阿部・小西・清田・松村・百木・津田

**観察状況**

- \* 6日の作業から1週間。より秋の深まりを感じる琵琶湖。前回より波が荒く水嵩が高い。10日の台風の影響か浜には水草やホテイアオイ・シイ等が打ちあがっている。遠くに「うみのこ」が見える。
- \* 浜は一段と秋が深まってきた。緑の葉はほんの少しているのみ。浜の北風は心地良い。
- \* ネナンカズラは見当たらない。



**活動内容**

- \* 前半は緊張感があるチェーンソーによる枯れた松の木2本の伐採。保護区の真ん中が一段と明るくなった。
- \* 後半はいつもの和気あいあいの保護区内のチガヤ、コマツヨイグサ、センダンの幼木等除草。

**海浜植物**

- \* ハマエンドウ:新しい葉が拡大してツルを伸ばしている。琵琶湖側の保護区の中には新しい株が増えている。
- \* ハマゴウ:葉も種も茶色になってきている。ところどころに花も見られる。
- \* ハマヒルガオ:全体的には葉も枯れているがまだ緑の濃いものも見られる。ハアリが巣をつくっていた。



新しい葉が拡大しているハマエンドウ



残り少ない花(ハマゴウ)



2本の枯れた松



伐採の様子



←松の伐採後





\* 観 察 日 令和2年10月16日(金)晴れ 気温 27 日°C

\* 参加者 阿部・小西・清田・松村・ 百木・津田

### 観察状況

- \* 北風が冷たく白波がたち秋の深まりを感じる琵琶湖。  
作業開始時は保護区の中も北風が冷たかったが終盤には風も止み暖かく感じた。
- \* 浜は一段と秋が深まってきた。緑の葉はほんの少ししか見当たらない。
- \* ネナシカズラが一か所あった。(前回 13 日の見落としか?)

### 活動内容

- \* 保護区通路の除草 (主としてチガヤ)
- \* ネナシカズラ駆除(1 か所)

### 海浜植物 \*13 日とあまり変わりがない。

- \* ハマエンドウ:新しい葉が拡大してツルを伸ばしている。新しい株が増えている。
- \* ハマゴウ:葉も種も茶色になってきているがところどころに花も見られる。
- \* ハマヒルガオ:全体的には葉も枯れているがまだ緑の濃いものも見られる。



ハマエンドウ



ハマゴウ・ハマヒルガオこの枝は比較的葉が緑だ



ネナシカズラ



カワラハハコ



砂の中にいたコガネムシの幼虫



松ぼっくりがたくさん落ちている

### 3. 生活実験工房からのお知らせ

11月22日(日)には生活実験工房で「秋の昆虫採集2020」を開催しました！参加者みんなで土の中から虫を見つけ出し、顕微鏡で観察を行いました。そして、顕微鏡で観察を行いながら、見つかった虫の同定を行いました。土の中に色々な虫がいることに皆驚かれ、大人も子供も楽しんで体験をして頂くことができました。また、今回のイベントは「虫架け」さまに全面的にご協力頂きました。ありがとうございました。

ただ、今回から田んぼイベントも事前予約制とさせて頂きました。事前予約制によりイベント運営は円滑に行える反面、どうしても参加者数を絞らなければならず、その点においては心苦しさを覚えることになりました。

さて、12月～2月は生活実験工房では下記のとおりイベントを予定しています。ぜひ予約申し込み頂き、ご参加くださいませ。

担当：交流係



#### 【活動予定】

- 12月20日(日) 10:30～12:30 (受付10:00～)  
しめ縄づくり (事前予約制(応募多数の場合は抽選になります。))
- 2月7日(日) 10:30～12:30 (受付10:00～)  
わら細工 (事前予約制(応募多数の場合は抽選になります。))

### 4. その他の事項

#### (1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなっており、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「\*\*\*@biwahaku.jp」、ホームページは「<https://www.biwahaku.jp/>」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

#### (2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

#### (3) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 [hashi-adm@biwahaku.jp](mailto:hashi-adm@biwahaku.jp) まで送ってください。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

#### (4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、**会員証を必ず持参**してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

#### (5) はしかけ活動中に事故が起きたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。